熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2025. 2. 17
第 274号
発行 入試・広報課

入学予定者 優しく支える

入学前サポートQ&Aセッション

パソコン越し 相談や疑問に応じる

パソコンの前に座り、準備に余念がない学生たち

総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者を対象にした「入学前サポートQ&Aセッション」が13日（木）、オンラインで行われました。会場のLL/PC室では、31人の在学生がパソコンの前に座り、画面越しに入学予定者からの相談や疑問に答えていました。

入学後のイメージをより明確にし、早めに準備を進めてもらおうと昨年から始まったもので、入学予定者が抱える疑問や不安を、リモートで在学生たちに相談することができます。

回答する在学生たちは、開始予定時間（13時半）の３時間前から会場に集まり、パソコンを設定したり自己紹介シートを作成したり、さらには、学科・専攻ごとに作戦を立てたりするなど、入念な準備をしていました。

渡辺雄一学部長のあいさつでスタート。参加者は、学科・専攻ごとに作成した動画を視聴した後、いよいよQ&Aセッションへ。在学生たちは、時折笑顔を見せながらテストや実習についての不安、髪色やピアスなど身だしなみに関する疑問など幅広い質問に答えていました。会の最後には画面の向こうにいる参加者たちに手を振って別れる姿も見受けられ、会場内は終始温かい雰囲気に包まれていました。

（NL編集部）

入学前準備学習

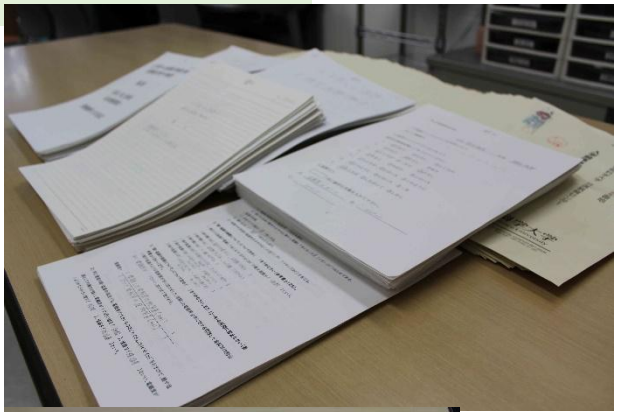
３カ月の空白期間 自己学習で有効に

来年度本学への入学が決定している人たちに向けた入学前準備学習が進行中です。

入学前準備学習は、昨年中に行った総合型選抜や学校推薦型選抜などに合格した生徒たちに向けた学習サポートです。合格発表から入学まで３カ月ほど期間が空くため、この期間を自己学習に充ててもらおうと、共通教育センターが毎年行っているものです。今回の対象者は237人で、年々受講者は増加しています。

教科は、郵送で答案を送ってもらい担当教員が添削をする日本語や物理、化学に加え、eラーニングによる英語や生物。総合型選抜の生徒には読書課題があります。課題に沿った学修を続けることで、大学での学びがスムーズで効果的なものになります。４月に新入生を迎え入れる教員だけでなく、実際に問題に取り組んだ生徒からも好評です。

課題の提出は入学までに計３回行われます。２回目の提出締め切り日となった７日（金）、共通教育センター事務局の机は、237人の生徒から送られてきた答案用紙で覆われていました。（NL編集部）



写真上は、共通教育センター事務局に送られてきた答案用紙。同下は、入学前準備学習で使用されているテキスト類

志高く 13人が研究成果を披露 修士学位論文公開発表会

令和6年度の大学院修士学位論文公開発表会が６日（木）、1304M講義室であり、13人の修了生が次々と演壇に立ち、研究の成果を披露しました。

発表者の内訳は臨床検査領域５人、リハビリテーション領域８人。学位審査や修士論文提出は既に終わっており、修了生にとってはこの発表会が学位取得のための最後の関門となります。１人20分の持ち時間で発表を行い、その後は参加した教員との間で10分間、活発な質疑応答が行われました。

本年度も「熊本県における薬剤耐性Escherichia coliの分離動向と基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生株の分子疫学的解析」、「慣性計測装置を用いたジャンプ着地動作中の膝関節外反運動評価の妥当性」「健常若年者における大腿部の瞬発的筋力と着地時の衝撃力の関係」など多岐にわたる内容。ほとんどの修了生が臨床の現場で働きながら高い志を持って研究に取り組んできました。中には、国際学会で最優秀論文に輝いた修了生もおり、レベルの高さがうかがえました。

発表会を見守った川口辰哉研究科長は「皆さん緊張の面持ちでしたが、自信を持って発表しており、よく準備された素晴らしい発表内容ばかりでした。もちろん本人の努力には拍手を送りたいですが、研究指導いただいた大学院教員のご尽力にも感謝申し上げたいと思います」とコメントしました。

（NL編集部）

活発な質疑応答があった大学院修士学位論文公開発表会

ピア・サポ通信

支援めぐり４大学が学生交流会

サポーター学生交流会が10日（月）、熊本市中央区の熊本大学黒髪キャンパス多目的室で開催され、本学からはピア・サポーター５人（MT３年生２人、２年生３人）が出席しました。

交流会には、本学のほか熊本大学、九州ルーテル学院大学、熊本学園大学が参加しました。参加者は、初めに４つのグループに分かれて自己紹介とゲームをしました。このアイスブレイクで、緊張も解け和やかな雰囲気になりました。

次に、各大学が行っている支援について意見交換をしました。身体が不自由な学生が大学で過ごしやすいように、バリアフリーマップを作成した事例や、聴覚障害サポートであるパソコンテイク活動などの報告がありました。本学はピア・サポート養成講座で知識を習得し、傾聴スキルなどを活かして活動を行っているさまを報告しました。

他大学での支援の取り組みを知り、ピア・サポート活動の紹介では共感を得ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。今後も様々なことに挑戦し、活動を行っていきたいと思いました。（医学検査学科３年 長 莉穂）

＝写真は、ジャンケンで事例発表の順番を決める参加者たち

キャンパステラス発

松岡 詠子

定期試験時の風景

図書館棟へ入館するために学生証をかざす。ピッという音とともに開くゲート。その音が、一定間隔で切れ目なく響いてきます。そして、時折ピピピピーというけたたましいアラームが。これは、教科書などでパンパンに膨らんだリュックや、両手いっぱいに荷物を提げた学生が通る際、機械が複数人一緒に入館したと、読み違えたためのものです。

学生たちは、図書館内の席を確保するため、毎朝８時30分には入り口扉前にずらりと並びます。そして、開館の８時50分になるとアッと言う間に図書館の中へと吸い込まれて行きます。

かたやキャンパステラスでは、９時になると、５～６人のグループが２組、３組と入室し、ホワイトボードを囲み始めます。図や絵、文字を書き込みながら、ディスカッションの始まりです。ボードに向かっていたある学生が、自身の学習法をこっそり教えてくれました。「必要な事を覚える時には絵を描き、一つの塊として記憶した方が覚えるし、忘れないんです」。

チャイムが時限の始まりや終わりを刻みます。せわしなくピッ、ピッ、ピッ、と規則正しく切れ目のない音が、終日響き続けます。時折、ピピピピーというけたたましいアラート音を挟みながら…。いつもながらの定期試験期間中の風景です。

週間行事予定（２月18日～２月25日）	
2/19（水）	国家試験（臨床検査技師）
2/20（木）	令和６年度ハラスメント防止研修会
2/24（月）	国家試験（理学療法士、作業療法士）